学習指導研究会
第18回全国バズ学習研究集会 要項

研究主題

子ども同士が支え合い 高まり合う
学習集団を作るにはどう指導したらよいか

日時　昭和58年10月7日(金)・8日(土)

会場　新潟県五泉市立五泉南小学校

主催　五泉市教育委員会
五泉市立五泉南小学校
全国バズ学習研究会

日　　程

第　1　日　　10月7日（金）

8:40	9:25	9:40	10:25	10:50	12:00	1:00	3:40	3:50	4:30	5:50	7:30
受付	自由参観	研究授業	休憩移動	開会式	全体発表	昼食休憩（器楽発表）	分科会	休憩移動	全体指導	移動	懇親会

第　2　日　　10月8日（土）

9:00	9:40	10:00	11:30	11:50
受付	バズ研総会	休憩	講演	閉会式

―― 目　　次 ――

1. 日程・目次 …… 1
2. 会場案内図 …… 2
3. 公開授業一覧 …… 3
4. 分科会一覧 …… 4
5. 開会式・閉会式 …… 6
6. 全体指導 …… 7
7. 講　演 …… 8
8. 全体発表 …… 9
9. 分科会提案 …… 10
10. 公開授業指導案 …… 16
11. 研究協議メモ …… 36

公　開　授　業　一　覧

第1日（10月7日）　自　由　参　観　（8:40～9:25）

学　級	教科	単元・題材名	指導者	学　級	教科	単元・題材名	指導者
1年1組	算数	たしざん・ひきざん	樋口　ユキ	4年1組	社会	人々のくらしと公共施設	高橋　道子
1年2組	社会	がっこうへかようみち	斎藤　英子	4年2組	国語	方言と共通語	小田　淑和
1年3組	国語	はっきりしたこえで（くじらぐも）	中村　信郎	4年3組	社会	人々のくらしと公共施設	水澤　誠一
2年1組	算数	ひきざん	松尾　典子	4年4組	国語	方言と共通語	青柳　敏識
2年2組	図工	よこむきの人	羽生　泰彦	5年1組	算数	分　数	熊倉　モト
2年3組	理科	空気あつめ	加藤ミサ子	5年2組	算数	分数の計算	小柳　裕
2年4組	国語	たのしい人形げき	土屋　隆昌	5年3組	理科	光の進み方	犬飼　哲夫
3年1組	国語	かっぱとてんぐ	馬場　高志	5年4組	社会	我が国の近代工業	本多　英子
3年2組	社会	工場のしごと	小島　早苗	6年1組	国語	やまなし（物語）	大関　敏
3年3組	理科	空気でっぽう	酒巻　健一	6年2組	社会	武士の世の中　②	阿部　明夫
3年4組	理科	へ　ち　ま	神田　直子	6年3組	算数	拡大図・縮　図	斎藤　裕子
6年5組（特殊）	国語	日　記	長谷川　春	6年4組	道徳	親ひとり子ふたり	米原　裕子

第1日（10月7日）　研　究　授　業　（9:40～10:25）

学　級	教　科	単元・題材名、議題名	指　導　者
2　年　2　組	理　科	空　気　あ　つ　め	羽　生　泰　彦
6　年　3　組	理　科	水溶液とその性質	斎　藤　裕　子
5年　2、4組	体　育	リズム体操と前まわりの連続技	小　柳　裕 本　多　英　子
3　年　2　組	特別活動（学級会活動）	3年2組の展覧会を開こう	小　島　早　苗
4　年　1　組	特別活動（学級会活動）	学級の旗を作ろう	高　橋　道　子

分　科　会　一　覧

校種	No.	分科会	主題	指導者
小学校	1	国語	読みとる力、聞きとる力を伸ばすには、相互作用をどのようにさせれがよいか。	北海道教育大学　鹿内　信善 徳島　徳島市立八万南小学校　北村　艶子 新潟　新潟大学附属新潟小学校　羽入　正路
	2	社会	自主的に協調して課題を追求する子どもに育てるには、どのようにすればよいか。	愛知　元豊川市立中部中学校　白井　仁 兵庫　姫路市教育委員会　永沢　昂 新潟　新潟市立入舟小学校　磯田　弘義
	3	算数	筋道を立てて考え、処理する力と態度を育てるには、どのようにすればよいか。	滋賀　愛知川町立愛知川小学校　石部　清和 愛知　春日井市立北城小学校　水野　明 新潟　新潟市立南万代小学校　小杉　正義
	4	理科 A(低)	自然の事象をありのままにとらえることを通して、一人ひとりの考えを出し合い、自分達の問題をねばり強く追求させる理科指導	三重大学　市川　千秋 新潟　五泉市立五泉小学校　橋本　佳二
		理科 B(高)		新潟　村松町教育委員会　右近　次男
	5	体育	効果的な見取りを成立させるには、どう指導したらよいか。	中京大学　杉江　修治 兵庫　元加西市立北条小学校　北田　一夫 新潟　五泉市教育委員会　大塚　正勇 新潟　新津市立金津小学校　相田　孝助 新潟　上川村立上条小学校　神田　康雄
	6	特別活動 A(低)	みんなでやろうとする気持ちを高める話し合い活動を求めて。	名古屋大学　梶田　正己 新潟　亀田町立亀田東小学校　渡辺美千枝
		特別活動 B(高)		新潟　五泉市教育委員会　渡辺　昇一
中学校・高等学校	7	学級経営	学級を学習集団に育てるにはどのように指導をすればよいか。	愛知　元春日井市立東部中学校　梶田　稲司 新潟　味方村立味方中学校　板橋　鈞治
	8	学習指導	学習における小集団の指導はどのようにすればよいか。	南山大学　石田　裕久 新潟　新潟市立宮浦中学校　大竹　敏夫
	9	生徒指導	生徒非行を生みださない指導はどうすればよいか。	広島　豊高等学校　新田　正彦 新潟　朝日村立猿沢中学校　舟越　和吉 兵庫　姫路市立書写中学校　藤本　貞治

（敬称略）

司会者			提案者			記録者		
岐阜	土岐市 泉西小学校	渡辺 達之	愛知	春日井市立 高座小学校	吉田 幸彦	新潟	五泉市立 五泉小学校	谷口 良
新潟	新潟市立 女池小学校	滝沢 原子	兵庫	姫路市立 峰相小学校	松尾 佳信	兵庫	姫路市立 御国野小学校	豊岡 久夫
			徳島	徳島市立 渋野小学校	細川 文男			
兵庫	姫路市立 船津小学校	坪田 実	兵庫	加西市立 北条小学校	芝 明	徳島	上那賀町立 桜谷小学校	宮本 寿
新潟	新潟市立 上所小学校	櫛谷 秋男	新潟	新潟市立 南万代小学校	渡辺 武志	新潟	新潟市立 曽野木小学校	塩原 京子
愛知	豊田市立 畝部小学校	竹本 篤松	滋賀	五個荘町立 五個荘小学校	高村 博	愛知	豊川市立 平尾小学校	丸山 正克
新潟	新潟市立 下山小学校	本田 雅之	広島	豊町立 久比小学校	宮地キヌ子	新潟	新潟市立 曽野木小学校	中原 清郎
			新潟	安田町立 保田小学校	中野 均			
新潟	白根市立 庄瀬小学校	平塚 洋夫	新潟	五泉市立 五泉南小学校	阿部 明夫	新潟	五泉市立 五泉南小学校	斎藤 英子
新潟	村松町立 村松小学校	二宮 俊作	新潟	五泉市立 五泉南小学校	犬飼 哲夫	新潟	五泉市立 五泉南小学校	小林 敦子
新潟	五泉市立 五泉東小学校	木村 照	新潟	五泉市立 五泉南小学校	小田 淑和	新潟	五泉市立 五泉南小学校	米原 裕子
新潟	五泉市立 川東小学校	樋熊 征夫	新潟	五泉市立 五泉南小学校	馬場 高志	新潟	五泉市立 五泉南小学校	松尾 典子
新潟	新津市立 阿賀小学校	佐藤 貞夫	新潟	五泉市立 五泉南小学校	大関 厳	新潟	五泉市立 五泉南小学校	長谷川 春
広島	豊町立 豊中学校	塩田 博久	広島	豊浜町立 豊浜中学校	望月 民雄	兵庫	姫路市立 琴陵中学校	塩津 設水
新潟	新潟市立 小針中学校	斎藤 剛	新潟	新潟市立 関屋中学校	野本 翼	新潟	新潟市立 寄居中学校	高橋 経子
愛知	春日井市立 鷹来中学校	松本 重雄	岐阜	土岐市立 泉中学校	水野せつ子	愛知	春日井市立 鷹来中学校	小川 治
新潟	新潟市立 上山中学校	松本 欣一	兵庫	姫路市立 花田中学校	高橋 正	新潟	新潟市立 東石山中学校	菅井 絢子
			新潟	新潟市立 木戸中学校	関根 廣志			
東京	清瀬市立 清瀬第五中学校	望月和三郎	愛知	春日井市立 鷹来中学校	高木 保春	広島	豊高等学校	笹原 法義
新潟	新潟市立 坂井輪中学校	波入 信司	岩手	盛岡市立 河南中学校	遠畑 勝人	新潟	新潟市立 関屋中学校	平田登喜子
			新潟	新潟市立 藤見中学校	長沢 宗英			

開　会　式

あいさつ

五泉市教育委員会
教育長　板　垣　信　一　殿

全国バズ学習研究会
会　長　永　井　辰　夫　殿

祝　　辞

新　潟　県　教　育　委　員　会　殿

五　泉　市　長
林　　十一郎　殿

閉　会　式

あいさつ

五泉市立五泉南小学校長
布　川　　賢

全　体　指　導

新潟県教育庁下越教育事務所学校指導課長
成　田　　俊　殿

講　　演

「授業改善の視点」

全国バズ学習研究会名誉会長・名古屋大学名誉教授
塩　田　芳　久　殿

全体会提案発表

五泉南小学校　本　間　忠　雄

子ども同士が支え合い、高まり合う学習集団を作るには、どう指導したらよいか

1.　なぜ、この研究主題をとり上げたか

(1)　これまでの研究経過から

(2)　教育目標、年度の重点目標の目ざす方向から

(3)　時代の要請から

2　この研究主題が意図している内容や方向

(1)　子ども同士が支え合うとは

(2)　子ども同士が高まり合うとは

(3)　学習集団を作るとは

3.　研究主題に迫るための方策

(1)　基本的な考え方として

(2)　研究体制をどのように立てたか

(3)　研究推進の基本構想

(4)　研究の柱を、どのように描いているか。

4.　三ケ年の研究で、実践を通して言えること

(1)　研究の成果として言えること

(2)　残された問題点と、今後の方向について

分科会提案発表　　理　科 A （低）

五泉南小学校　阿　部　明　夫

自然の事象をありのままにとらえることを通して、一人ひとりの考えを出し合い、自分たちの問題をねばり強く追究させる理科指導

1. 理科部の主題が意図するもの

(1) なぜこの主題を設けたのか

(2) 自然の事象をありのままにとらえるとは

(3) 一人ひとりの考えを出し合うとは

(4) 自分たちの問題をねばり強く追究するとは

2. 研究の柱について

(1) 直接、事象に接する機会（直接経験）を多くするとは

(2) 情報交換を活発にするとは

3. 理科学習を通して育てようとした人間関係について

(1) 認め合う仲間 ・ はげみ合う仲間 ・ 問題解決に向けて考えを出し合う仲間

(2) 「望ましい子どもの姿」

4. 学習集団の評価について

5. これまでの研究実践から得られた成果と問題点

分科会提案発表　　理　　科 B　(高)

五泉南小学校　犬　飼　哲　夫

自然の事象をありのままにとらえることを通して、一人ひとりの考えを出し合い、自分たちの問題をねばり強く追究させる理科指導

1. 理科部の主題が意図するもの

(1) なぜこの主題を設けたのか

(2) 自然の事象をありのままにとらえるとは

(3) 一人ひとりの考えを出し合うとは

(4) 自分たちの問題をねばり強く追究するとは

2. 研究の柱について

(1) 直接、事象に接する機会（直接経験）を多くするとは

(2) 情報交換を活発にするとは

3. 理科学習を通して育てようとした人間関係について

(1) 認め合う仲間　・　はげみ合う仲間　・　問題解決に向けて考えを出し合う仲間

(2) 「望ましい子どもの姿」

4. 学習集団の評価について

5. これまでの研究実践から得られた成果と問題点

分科会提案発表　　体　　育

五泉南小学校　小　田　淑　和

効果的な見取りを成立させるためには、どう指導したらよいか

1. 研究主題の意図

(1) 学び方から集団づくりへの取り組み

(2) 見取り合いの活動を大切にする

ア．見取りとは

イ．効果的な見取りを成立させるとは

2. 研　究　の　柱

(1) 効果的な見取りを成立させる条件

ア．個やグループにめあてを持たせる工夫

イ．子ども同士のかかわらせ方の工夫

ウ．めあてを主体的・継続的に追究する学習過程の工夫

(2) 望ましい子ども像の評価

3. 実践を通していえること

(1) 個やグループにめあてを持たせるでは

(2) 子ども同士のかかわりでは

(3) 学習過程では

4. 残された問題点と今後の方向について

(1) 望ましい子ども像の評価から

(2) 授業実践から

(3) 見取り合いの活動を通し、さらに子どもの力を伸ばしていく

分科会提案発表　　特別活動　A　（低）

五泉南小学校　馬　場　高　志

みんなでやろうとする気持ちを高める話し合い活動を求めて

1. 主題について

(1) 「学び方」から「集団づくり」へ

(2) 教育目標、年度の重点目標のめざす方向から

(3) 特別活動の目標、学級会活動のねらいから

2. 研究の柱

学級の人間関係を高める集団づくりをめざす学級経営を基盤として

(1) 話し合い活動の充実を図る。

(2) 話し合い活動における望ましい子どもの姿を評価する

(3) 児童活動全体へ視点を拡大する

3. 実践例

(1) 日常の集団づくりが、どのように学級会活動に現われているか

ア　学級朝会、終会の運営から

イ　「生活を見つめる目」を「生活をよくする力」に変える

(2) 特別活動の評価をどのようにしたか

ア　集団形成と特別活動の評価

イ　授業実践と評価

(3) 研究の視点を拡大していく方向で、特別活動の全体計画を改訂

4. 残された問題点と今後の方向について

分科会提案発表　　特別活動　B　（高）

五泉南小学校　大　関　　厳

みんなでやろうとする気持ちを高める話し合い活動を求めて

1. 主題について

(1) 「学び方」から「集団づくり」へ

(2) 教育目標、年度の重点目標のめざす方向から

(3) 特別活動の目標、学級会活動のねらいから

2. 研究の柱

学級の人間関係を高める集団づくりをめざす学級経営を基盤として

(1) 話し合い活動の充実を図る

(2) 話し合い活動における望ましい子どもの姿を評価する

(3) 児童活動全体へ視点を拡大する

3. 実践例

(1) 日常の集団づくりが、どのように学級会活動に現われているか

ア 孤立児H子を追跡しての2年間（5～6年）

(2) 特別活動の評価について

ア 集団形成と特別活動の評価

イ 授業実践と評価

(3) 研究の視点を拡大していく方向で、特別活動の全体計画を改訂

4. 残された問題点と今後の方向について

分科会提案

第２学年２組　理科学習指導案

指導者　羽　生　泰　彦

―― 主題に迫るための学級経営 ――

(1) 学習集団づくりでは

１年生の時から「なかよく元気にがんばる子」という学級目標のもとに、おたがいが相手のことを認め合えるような学級づくりを目ざし、次のようなことに力を入れてきた。

- 係活動では、１年生の間は自分の好きな係を選ばせていたが、２年生からはいろいろな係を経験させるために１カ月ごとの輪番制にしている。
- グループによる活動は、２人を中心にしてきたが、作業や係の仕事などでは４人の班をつくり、おたがいに協力して活動するようにしている。
- 学級の全員と担任がいっしょに遊ぶ時間を設け、教師と子ども、子どもと子どものかかわり合いを深めてきた。

(2) 理科の授業では

この学級の子どもたちにとって、理科は友だち同士のかかわり合いを深めるだいじな学習の場になっている。「土とすな」の学習では、自分たちの背よりも高い砂の山を作ろうという課題への意欲が高まるにつれ、言葉や行動を通して自分の考えを主張したり、相手のよい方法を見ならったり、作業を分担し合ったりして積極的に友だちとかかわっていく姿が見られた。このような姿が常に見られるように次のことに力を入れている。

- 小人数での活動の機会を多くし、２人もしくは４人のグループを活動の内容によって使い分けている。
- 話し合いの初期の形として、「言い合い」（注、研究紀要108ページ）をだいじにしてきた。
- 一人ひとりの子どもに、しっかりと事象をおさえさせるために、カード式の観察ノートに自分の見たことやわかったことを記録させるようにしている。

1. 単　元　名　空気あつめ

2. 児童と単元

(1) 単元について

第１学年では風で動くおもちゃを作って動かす活動をしている。この活動ではおもちゃをより速く、より遠くまで動かすために、風の当て方や強さなどを工夫している。

本単元では、空気を集めて閉じ込めると手ごたえのあることを感じたり、水の中では泡になって見えることなどに気付かせる。このような活動を通して、空気と親しむ楽しさを味わわせるとともに、目には見えないが身の回りには空気が存在することに気付かせる。

ここでの経験は第３学年での空気の弾性の学習の素地となる。

(2) 児童の実態

この学級は、理科の好きな子どもたちが多い。その理由として、理科では、物を作ったり、遊んだり、外で活動できたりする楽しさをあげている。そのため、与えられた課題については意欲的に取り組む姿がみられる。しかし、そこから自分たちで新しい活動を工夫したり、自分の考えを進んで友だちに伝えたりする活動などでは、消極的な傾向が見られる。

本単元の実態調査から、空気という言葉は子どもたちのほとんどが知っており、日常生活の中でもよく口にしていることが確かめられた。また、紙袋やビニル袋をふくらませ、手でたたいて破裂させる遊びや、空気を入れたタオルを風呂の中へ沈めて泡を出す遊びなどは、大部分の子どもたちが経験していることもわかった。

このように、ほとんどの子どもは身の回りに空気があると考えているのに、入れ物の中の空気の有無を問う調査では、ふたをした空びんは何も入っていないと答えている子が多い。このことは、空気を言葉としてはよく知っているが、その存在については実感として十分にとらえてはいないことを示している。

(3) 指導の構え

このような児童の実態から、空気の存在を実感としてとらえさせるには、体感による直接経験が何よりも大切だと考え、次のような活動を設けた。

- 体育館やグランドのような広い場所で大きなビニル袋に空気を集めたり、集めた空気を使って遊んだりする活動を十分にさせる。
- 空気をより強く感じさせるために、プールの中での活動を取り入れる。空気の入った袋に乗ったり、沈めたり、つかまって泳いだりする遊びの中から、空気を体で感じさせたい。また水中では空気が泡として見えることにも興味をもたせたい。

このような経験をもとに、空気の存在やかさに気付かせるための活動として空気のひっこしをさせる。その際、子どもたちがぜひ空気を移し換えたいと思うような課題提示を工夫する。

また、単元全体を通して、子どもたちが新しい活動を工夫しやすいように、いろいろな教材を用意したり、その与え方にも配慮する。そして、子どもたちが夢中になって活動している中から、友だちと互いに協力し合ったり、おたがいに気付いたことを教え合ったりできる学習にしたい。

3. 指導目標

- 空気は閉じ込めることができ、閉じ込められた空気には、かさや手ごたえがあることに気付く。
- 水中で水と空気を置き換えることができる。
- 閉じ込めた空気でいろいろな遊びを工夫できる。
- 身の回りのいろいろな場所やものの中には空気があることに気付く。
- 空気の存在に興味を持ち、自分の発見や考えを喜んで友だちや教師に伝えることができる。
- 友だちとなかよく空気あそびをすることができる。
- 自分の発見や考えを観察カードに絵や文でかき表わすことができる。

4. 展開の大要 ―― 6 時間 ――

次	時	ね　ら　い	学 習 活 動	備　考
1. 空気あそび	2	◦空気を集めたり閉じ込めたりする活動を通して、空気は集められることに気付く。 ◦集めた空気で遊びを工夫することができる。	◦いろいろな袋を使って空気を集め、閉じ込める。 ◦集めた空気を使って、いろいろな遊びをしてみる。	◦教室だけでなく体育館やグランドなどでも空気を集めさせる。
		◦空気の入った袋を水に押し込んだり、その上に乗ったりしながら、空気のかさや手ごたえなどを感じることができる。	◦プールの中で友だちといっしょに大きなビニル袋を水に押し込んだり、乗ったりしながら、水をつかった空気の遊びを楽しむ。	◦気温や水温の高い日を選び、安全にも十分配慮する。
2. 水の中の空気	3 本時（2／3）	◦空気は水中で泡となって見えることに気付く。	◦ビニル袋やコップ、びんなどをつかって水そうの中で泡出しをする。	◦泡を出すいろいろな遊びを工夫させる。
		◦水中で水と空気を置き変えることができる。 ◦空気は水と同じように空間を占めていることに気付く。	◦袋に入った空気をびんの中に移し換える方法を工夫する。	◦いろいろな考えが出るように、班での活動を中心にする。
		◦底のない入れものの中にも空気が入っていることに気付く。 ◦出ていく空気を集める活動により、空気が空間を占めることを確かめることができる。	◦底のない容器の口にビニルの袋をつけて水中に沈ませ、袋のふくらむ様子や水の入り方を観察する。	◦ゴムの手ぶくろや風船も用意する。
3. 空気さがし	1	◦水中で泡の出るものをさがす活動から、身の回りのいろいろなものに空気が含まれていることをとらえることができる。	◦身近かなものを持ちより、その中にある空気を、水中での泡によってたしかめる。	◦子どもが気付きにくい物や意外なものを教師が用意しておく。

5. 本時の指導計画 （第２次　２／３時）

(1) ね　ら　い

◦空の容器にも空気が入っていることに気付く。

◦水中で水と空気を置き換えることができる。

◦自分で気付いたことや考えたことを班や全体の場で伝えようとすることができる。

◦班で協力して楽しく活動ができる。

(2) 授業の仮説

ビニル袋にあらかじめ用意しておいた空気を、特別な空気として子どもたちに示し、外に逃さないようにしながらビニル袋からびんに移し換えたいことを知らせる。子どもたちは空気をびんに分けてもらいたいという目あてをもって活動に入るようにしたい。

大部分の子どもたちは、空気を直接びんの中に移そうとするだろうが、うまくいかないこと

に気付くだろう。空気は水中で抱となって見えることやコップを水に沈めると中から空気の泡が出てかわりに水が入ることなどの経験から、水中での置換に目 を向けさせたい。友だちと「言い合い」ながら活動する中から、自分たちの力で水と空気の置換の方法を考えついてくれることを期待している。しかし、びんの中の空気をぬくために水を入れ水中で逆さにするという操作までは考え出せない場合には、教師の演示や助言によって導きたいと考えている。

(3) 展　　開

学習活動	教師の働きかけ	予想される児童の反応	指導上の留意点
本時の学習課題を知る。	◦これは特別な所から集めてきた空気です。みんなに分けて上げるから、びんの中に移して下さい。	◦やってみたいな。 ◦空気のひっこしだね。 ◦できるかな。	◦空気の入ったビニル袋は班の数、びんは人数分用意する。
	どうしたら袋の空気をびんに移せるのかな。		
班ごとに方法を相談しながら空気を移し換える。	◦どうやったら空気をひっこしさせられるかな。 教室の空気で練習してみよう。	◦びんの口に袋をつけて、袋の空気を押し込めばいい。 ◦空気が入っていかないよ。 ◦袋の口にストローを付けてやってみよう。 ◦空気がまざってしまうみたいだよ。	◦これまでの学習に使った用具や袋などを用意して置き、自由に使えるようにする。 ◦空気を移せない方法で、空気が移ったと考えている班には助言をあたえる。
	◦目で見えるようにして、ひっこしさせたいね。	◦水の中で集めたらどうだろう。 泡になって見えるよね。	
全体で集まって友だちの話を聞く。	◦困ったところやうまくいったところを教えて下さい。	◦水の中でやると見えるよ。 ◦びんの中には水を入れておかないと集まらなかった。	◦子どもたちの考えから空気を移す方法が出ない場合は、教師のヒントで正しい方法に導く。
	水の中でひっこしさせればいいんだね。		
はじめに見せた袋の空気で、班ごとに空気を移し換える。	◦みんなでやってみよう。空気はうまくびんに移るかな。	◦水が下がって、空気が入ってくるのがわかるよ。 ◦いっぱいになると横から空気が逃げていく。 ◦うまくびんに空気を入れられたぞ。	

(4) 評　　価

◦空気をひっこしさせる方法がわかり、水と空気を水中で置き換えることができたか。

◦自分で気付いたことや考えたことを進んで友だちや教師に伝えることができたか。

◦友だちといっしょに楽しく活動できたか。

第６学年３組　理科学習指導案

指導者　斎　藤　裕　子

―― 主題に迫るための学級経営 ――

(1)　**学習集団づくりでは**

◦活動の基盤を班におき、一人ひとりが役割を持つ。

班は4～5人を単位に9班編成とし、約6週間ごとに編成替えを行う。この班は学習班、生活班を兼ねていて、各教科班、係活動・当番活動を分担している。以前は教科班を作らずに、日直にまかせていたが、負担が大きすぎ、責任を持って継続できないので、各班で一教科ずつ分担することにした。教科班は授業の準備や全体での話し合いの進行役をつとめる。班内でも、各教科で話し合いの進行役が決まっていて、全員がリーダーである。係も9つの係を各班で分担し、教師と共に考えを出し合い、よりよい学級にしていくために自主的な活動を行っている。

◦授業へのとりくみ方

集団形成度調査の結果、自分の思っていることをどんどん発表する、友達の発表をよく聞く、自分の思っていることを気楽に発表できる等が落ちこんでいたので、次のことに力を入れている。

・聞く態度を身につける……自分の考えと比較しながら、最後までしっかり聞く。

・自分の考えを持って授業にのぞむ……課題をしっかり把える。個人思考の時間の確保。

(2)　**理科の授業では**

ア・直接経験を重視した活動

◦子どもが興味を持って事象に接することができるように、魅力のある事象提示に努める。

◦事象に十分ひたらせるための時間の確保と教材の吟味に努める。

イ・情報交換を通しての学習集団づくり

◦記録を正確にとることにより、しっかりと自分の意見を持たせる。

◦一人ひとりが考えを出し合って問題追求し、考えを深めていくようにする。

既成概念にとらわれず、常に「なぜだろう」と自分の目で見るようにさせると共に、実験、観察を通して、班内や学級全体で考えを出し合い追求することにより、みんなで考え、解決し、わかったという喜びを味わわせた。

1.　単　元　名　水熔液とその性質

2.　児童と単元

(1)　単元について

これまでに児童は、第2学年「せっけん水」、第4学年「水とほうさん」、第5学年「食塩水のこさと重さ」の学習において、ほう酸、食塩などの固体を水に溶かし、温度による溶け方

の違いや水溶液の均一性、濃さ、結晶の折出、重さについて学習してきている。

ここでは、このような経験を基にして、水に溶かすものを気体にまで広げ、水溶液を色、味、においなどのほか、指示薬を用いて調べたりする。そして、水溶液の中には金属を溶かすものもあることをとらえさせ、水溶液についての見方を一層広げてやることをねらいとしている。

ここで扱う素材は、炭酸水、塩酸、水酸化ナトリウム等の水溶液の特徴がとらえやすいものを選んで用いる。薬品等の取り扱いや実験操作については正しい操作と安全に十分配慮する。

この学習は、中学校第1分野(5)物質とイオンの学習につながる。

(2) 児童の実態

学級の様子は男子が活発で女子がやや消極的である。班内では全員が発言できるようになってきたが、一部の積極的な子どもによって授業が進行し、他の子どもは人まかせな傾向がある。

本単元の実態調査の結果から、気体が水中で泡になって出てくることは理解されているが、空気が水に全然溶けないと答えた者が半数近くもいることから、気体が水に溶けることについてはあまり意識されていないと思われる。コーラ、サイダーから出る泡は、約半数が水溶液から出てくると考えているが、二酸化炭素とは考えていない。金属が溶けることについては、やわらかい金属の方が溶けやすいと考えている。

(3) 指導の構え

はじめに未知の水溶液を探る活動から入る。共通点や違いのはっきりしている水溶液（せっけん水、ほう酸水、食塩水、薄い塩酸、薄い水酸化ナトリウム水溶液、アンモニア水、炭酸水、さとう水、蒸留水）を与え、感覚を通したり、蒸発乾固などで調べる。また、リトマス紙を使用して、酸性、アルカリ性、中性に分けられることも知らせる。

炭酸水は蒸発させると何も残らないが、出ている泡に着目させ、泡を集めて調べる活動、再び水に溶かして炭酸水作りをする活動等から気体も水に溶けることを理解させる。

5年生の二酸化炭素を作った実験から、塩酸や水酸化ナトリウム水溶液は金属を溶かすのではないかという考えを持たせ、アルミニウムで調べる。また、鉄のようにかたい金属でも溶けて変化し、前と違う物質になることについても触れ、水溶液はついての見方を一歩深めさせる。

本単元は実験が多いので、班内で一人ひとりが役割を分担し協力して積極的に実験していくように指導したい。また、実験、観察の前には予想を立てる時間を確保し、自分の考えを持たせることにより、全員が活発に発言できるようにさせたい。

3. 指　導　目　標

- リトマス紙を使って、水溶液を酸性、アルカリ性、中性に類別できる。
- 気体も水に溶け、他の水溶液と同様に水溶液としての固有の性質を示すことを理解できる。
- 水溶液には金属を溶かすものがあり、その際、違う性質のものに変化することが理解できる。
- 水溶液の性質に興味を持ち、問題意識を持続して、いろいろな方法で調べることができる。
- 自分の考えを持って話し合いに参加し、人の考えを聞いて自分の考えを深めることてできる。
- グループで協力して、実験、観察をし、考えを出し合って話し合いができる。

4. 展開の大要 ――8時間――

次	時	ねらい	学習活動	備考
1. 水溶液のなかまわけ	2	◦未知の水溶液をいろいろな方法で探り、調べることができる。 ◦リトマス紙を使って、水溶液を酸性、アルカリ性、中性に類別できる。	◦いろいろな水溶液を感覚を通したり、リトマス紙を使って調べる。 ◦水溶液を加熱して溶けているものを調べる。	加熱器具の扱い方や観察の仕方に注意して安全に実験する。
2. 気体の溶けた水溶液	3（本時1／3）	◦炭酸水から出る気体が何であるか関心を持ち、推論して調べることができる。 ◦水溶液には気体の溶けているものがあることを理解できる。	◦炭酸水から出る気体を集め、調べる。 ◦二酸化炭素が水に溶けることを確かめる。（炭酸水作り） ◦アンモニア水、塩酸に溶けているものを調べる。	気体の集め方は5年生の学習経験を想起させてやる。
3. 水溶液と金属	3	◦水溶液には金属を溶かすものがあることがわかる。 ◦アルミニウムは水溶液に溶けるときに発熱し、もとの物質と違うものになることがわかる。 ◦金属の違いによる反応の仕方を比較、観察できる。 ◦水溶液に金属を溶かす実験を安全に行うことができる。	◦塩酸、水酸化ナトリウム水溶液にアルミニウムを入れ、変化の様子を調べる。 ◦出てくる気体を調べ、水素であることを知る。 ◦アルミニウムが溶けた液を蒸発させて、もとのアルミニウムと比較し調べる。 ◦鉄、銅を塩酸、水酸化ナトリウム水溶液に入れ、変化を調べる。	水素については、燃える気体であるので、目的に適合した器具を用い、小規模な実験にして、事故防止に十分留意する。

5. 本時の指導計画 （第2次 1／3時）

(1) ねらい

◦炭酸水から出る気体を集めて調べ、二酸化炭素であることを確かめることができる。

◦自分の考えをもとにして、班や全体で話し合うことができる。

◦班で協力して実験、観察ができる。

(2) 授業の仮説

蒸発乾固しても溶けているものが残らなかった炭酸水から出る泡に着目し、この泡は何であるか予想を立て、調べる方法を考える。空気、二酸化炭素、酸素などの気体の特徴、性質は5年生で学習しているので、その経験を基にして、各班で実験計画を立てさせてから実験を行なわせたい。石灰水が白濁し、ろうそくの火がすぐに消えることなどから二酸化炭素であると確かめられる。考える過程、実験において協力する姿が見られることを期待する。本時において

炭酸水から出る泡が二炭化炭素であることを知るが、二酸化炭素が水に溶けているという意識は薄いと思われる。次時での溶かす活動によって、気体も溶けるということを確かなものにしたい。

(3) 展　　開

学習活動	教師の働きかけ	予想される児童の反応	指導上の留意点
	◦炭酸水からは泡がどんどん出てくるね。この泡は何なのだろう。	◦何だろう。	
出てくる泡は何だろう。			
◦泡は何であるか予想を立てる。		◦空気かな。 ◦炭酸水というんだから炭酸さ。 ◦炭酸って何。 ◦二酸化炭素かな。酸素かな。	
◦予想を確かめるための方法を考える。	◦どうやったら確かめられるかな。	◦集めよう。 ◦ろうそくの火を入れてみよう。 ◦石灰水で調べよう。	集めるという意識を全体に広げる。
◦各班で実験計画を立てる。	◦実験計画を立てよう。	◦二酸化炭素ならば石灰水が白く濁るし、火がすぐ消える。 ◦酸素ならば……。空気ならば……。 ◦炭酸ならば……？ ◦もし違っていたら、次は……。 ◦いろいろな方法でやってみたい。	気体の集め方は5年生で学習した方法を想起させ、やり方を示す。
○○だと思う。確かめてみよう。			
◦実験計画を発表する。		◦私たちの班は酸素だと思うので、まず、せんこうの火を入れます。 ◦ぼくたちの班は……。	危険防止を意識させる。
◦気体を集めて調べる。（班）	◦さあ、やってみよう。	◦あれ、すぐ消えたよ。酸素じゃないね。 ◦やっぱり白く濁った。二酸化炭素だ。ろうそくの火はどうかな。	ここで修正が必要ならば修正させる。
◦結果を発表する。	◦どんな結果になりましたか。	◦石灰水は白く濁り、ろうそくの火はすぐ消えました。	
◦わかったことをまとめる。	炭酸水から出てくる泡（気体）は二酸化炭素だ。		
◦次時の課題を作る。	◦二酸化炭素はどうなっていたのかな。	◦溶けていたのかな。 ◦じゃあ、溶けるの。溶かしてみようよ。	

(4) 評　　価

◦炭酸水から出る気体を集めて調べ、二酸化炭素であることを確かめることができたか。

◦自分の考えをもとにして、班や全体で話し合うことができたか。

◦班で協力して実験、観察ができたか。

第５学年２組・４組　体育科学習指導案

指導者　小　柳　　裕
本　多　英　子

―― 主題に迫るための学級経営 ――

(1) **学習集団づくりでは**

５年生では、一人ひとりが自分なりの考えを持ち、それを互いに発表し合うことによって、自分の考えを深め、互いによりよい考えを導き出していこうとする学習集団をめざしている。そのために、小集団での活動を多くし、気軽に話し合える雰囲気づくりをしている。そして一人ひとりがやることがわかり、それについての自分の考えを持ち、友達の意見と比較しながら、確認や修正をしていくことのできる子どもに育てようと努めている。

(2) **体育科では**

生活班を基盤にしたグループでの教え合い、励まし合いを大切にしている。一人ひとりやグループのめあてをはっきりさせ、それに基づく見取りを通して、互いに高まり合おうとする学習集団を作ることを意図して、次のような手だてを講じている。

◦学習のめあてを持たせ、それを達成するための大まかな学習計画を立てさせる。
◦練習方法や技能のポイントを練習カードから知ることができるようにさせる。
◦グループ内あるいはグループ相互で、お互いのめあてを知って、それに基づく見取りができるようにさせる。

1. 題　材　名　「リズム体操」と「前まわりの連続技（マット運動）」

2. 児童と題材

(1) 題材について

ア・「リズム体操」

１学期には、力強い動き・体を柔かくする動きについて、人運びやストレッチ体操などの運動を学習した。リズム体操では、リズムに乗って調子よく動き、体の各部位を十分に動かすことによって、リズミカルな動きを高めることをねらう。

イ・「前まわりの連続技」

４年生で、前転―開脚前転、後転―開脚後転の連続技を学習してきている。ここでは、前転―開脚前転―前転の連続技を取り上げ、スムーズに３つの技を連続させることを学習する。その中に工夫した新しい前まわりの技を加えて、連続技がとぎれず、なめらかにできるようにする。

(2) 児童の実態

◦音楽に合わせて動くことは、児童は好きであるが、恥ずかしい、動き方がわからないといった理由で、思うように動けない児童が多い。

◦マット運動についての意識調査では、マット運動が好きだという児童は８０％近くいるが、その理由としては、上手にできるから好きより、楽しい、おもしろいから好きとしているものが多い。実際やらせてみると、意識調査で自分ではできると答えた児童でも、前転では手のつき、背のまるめ方、起き上がり方、開脚前転では足の開きやひざが伸びていないなど正確な動作ができていないものが多く見られた。

従ってこれからの学習では、マット運動への興味・関心を持続させながら、ひとつひとつの技の正確さへも着目させていく必要がある。

(3) 指導の構え

(ア) 「リズム体操」では

リズムに乗って精一杯動く、音楽にあったリズミカルな動きを作るという２点にねらいをおきたい。リズムのよくわかる４拍子の音楽を使い、それにあわせて、体を大きく動かす。また、体の各部位を使った多様な動き方を学習すると共に、動きを作る場面を設定し、各自が工夫した動きを入れて、音楽にあわせたリズミカルな運動をさせたい。

(イ) 「前まわりの連続技」では

前転―開脚前転―前転の連続技で、前の技と次の技とのつなぎをスムーズにすること、ひとつひとつの技を正確にすることに気づかせていく。

前転―開脚前転―前転のはじめの前転の部分に、各自が自分の能力にあわせた新しい技を工夫して入れ、開脚前転―前転へとつなげることによって、自分の連続技という意識で、意欲的に運動に取り組ませたい。また、開脚前転―前転の共通部分では特に開脚前転の技能のポイントを明らかにし、練習方法を工夫して正確な技ができるようにさせたい。

(ウ) 見取りについて

自分なりの新しい技を加えて連続技を完成させ、発表会をしようという大きなめあてを持たせる。そのめあてを持って、連続技について知る―試技し教え合う―自分のめあてを見つける―工夫して練習する―次のめあてを見つけるという学習が主体的にできるようになると考える。

本題材では、このような学習過程の中で、めあてをはっきりさせ、それに基づく見取りができるよう次の点を大切にしたい。

① 示範やフィルムなどで動きのイメージをとらえさせ、全体像をとらえさせる。

② 一人ひとりのめあてをグループのみんなに伝え、めあてにそった見取りができるようにさせる。

③ 生活班を基にしたグループで、教え合い励まし合いを大切にする。

連続技がスムーズにできるためのポイントを、ひとつひとつの技の正確さと次の技へはいる姿勢に素早くなることに目を向けさせる。そのための見取りは、グループ内で、見る

位置や見る観点を分担したり、練習カードを活用していきたい。

3. 指　導　目　標

◦４拍子の音楽に合わせてリズミカルに、体の各部位を精一杯動かすことができる。
◦新しい技を加えた前まわりの連続技が、とぎれないでスムーズにできる。
◦安全に気をつけて、グループで協力し合い、各自がめあてに向かって学習できる。

4. 展開の大要

(1) 本題材の指導計画

ア・「リズム体操」　２時間

次	時　間	ね　ら　い	学　習　活　動	指　導　内　容
1	20×2	・リズム体操の動きがわかる。	・体の各部位を十分動かし、音楽に合わせて、運動する。	・４拍子の音楽に合わせた動き
2	15×2 20×1 (本時$\frac{1}{3}$)	・工夫した動きを入れ楽しくリズム体操ができる。	・１６こ間を工夫し、それを入れてリズム体操をする。	・リズミカルな動き ・大きな体の動き

イ・「前まわりの連続技」　３時間

次	時　間	ね　ら　い	学　習　活　動	指　導　内　容
1	25 × 1	・連続技を知り、めあてを持つことができる。	・前転―開脚前転―前転を知る。 ・連続技の練習をする。	・技の正確さ ・つなぎの工夫
2	25×1 30×2 (本時$\frac{2}{3}$)	・新しい技を加え、前まわりの連続技ができる。	・新しい技を見つける。 ・連続技に加えて練習する。 ・連続技を完成させる。	・イメージづくり ・技の正確さ ・スムーズなつなぎ
3	25 × 1	・発表会をする。	・グループの連続技を見せ合う。	・スムーズな連続技

5. 本時の指導計画

(1) ね　ら　い

◦工夫した動きを加えて、リズムに合った動きで、体操ができる。
◦新しい技から開脚前転へスムーズにつなげることができる。
◦安全に気をつけ、めあてを意識した見取り合いができる。

(2) 授業の仮説

リズム体操では、互いの動きがよく見えて楽しく動けるように兄弟グループで一つの円を作って運動し、各自が工夫した動きについてはバデーで見取り合い、よりよい動きを工夫する。

マット運動では、図解したものを用意し、工夫したことや教え合ったことを書き加えながら練習する　・リズムをとりながら練習する　・腰の位置に目印をつけ、その動きを追いながら連続技の流れを見てもらう。　・グループ内で、全体の流れ、つなぎの姿勢などを分担して見てもらう　・手や足の位置を考えて練習する　・技の向上のために、踏み切り板や台、厚めのマットなど工夫した用具を利用し、正確な技づくりをするなどの手だてをとる。これらの手だてによって、各自のめあてが明らかになり、はっきりした観点で見取ることができると考える。

(3) 展　　開

学習活動	指導内容	子どもの意識の流れ	教師の働きかけ
◦工夫した動きを練習し、見取り合う。 ◦音楽に合わせて動く。	◦体全体を大きく動かす動き ◦１６こ間の動き ◦リズムをとる ◦ひとつひとつの動作を大きくする。	◦リズムに合っているかな ◦大きく動いているか見てもらおう。 ◦音楽に合わせて、楽しく精一杯動こう。 ◦力一杯動いたなあ。	体を大きく動かした動きになっているか友達に見てもらおう。 音楽に合わせて、体を精一杯大きく動かそう。
◦前転―開脚前転―前転の練習をする。 ◦自分の連続技のめあてを確認する。 ◦各自の連続技を練習する。 ◦練習する。 ◦次時のめあてを確認する。	◦開脚前転の足の開きと起き上がりのタイミング ◦開脚前転は起きたら両手を横にのばし、ひざも十分伸ばす。 ◦スムーズなつなぎ方にするための工夫 ◦ひとつひとつの技の正確さ。 ◦友達のよいところ、直した方がよいところを見つけて教え合う。 ◦見取ってもらったことを中心に練習する。 ◦３つの技が正確で、スムーズな流れになること。	◦今度はマットの連続技だ。 ◦早く回ってみよう。 ◦ひとつひとつの技を正確に回ってみよう。 ◦今日は連続させるところをがんばるんだな。 ◦こうするとうまくつながるかもしれない。 ◦うまくリズムに合わないな。 ◦もっといい方法はないかな。 ◦友達の上手なところはどこだろう。 ◦開脚前転の足の開きをもっとよくしよう。 ◦今度は３つの技がつっかえないようがんばろう。	リズムに合わせて、調子よく回ろう。 ◦新しい技と開脚前転のつなぎ方を工夫しよう。 ◦自分のめあてをしっかり伝えよう。 ◦次の技へはいりやすい姿勢になるよう工夫しよう。 ◦友達のよいところは、とり入れて練習しよう。 ◦うまくできたところとできないところを確認して次のめあてをつくろう。

(4) 評　　価

◦大きく体を動かす動きを工夫して、リズム体操ができたか。

◦新しい技と開脚前転へのつなぎが、スムーズになるように工夫して練習したか。

◦友達のめあてを知り、めあてにそった助言ができたか。

第３学年２組　学級会活動（話し合い活動）指導案

指導者　小　島　早　苗

――― 主題に迫るための学級経営 ―――

(1) 学習集団づくりでは

どの子も、元気よく「おはよう」で学校生活を始め、「がんばったよ。」「よい一日だったよ。」という満足感を持って家族の元へ帰ってほしいと願っている。そのために、まず、一人ひとりがめあてを持ち本気を出して学習に取り組むように努めている。そして、互いの良さや努力を認め合い、力を出し合い補い合って、みんなで伸びていこうとする班づくり・学級づくりをしてきた。子ども達が、望ましい班・学級のきまりを自分達で作っていく力や、学校生活をより楽しいものにする力を身につけるよう願っている。

① 子ども同士のかかわりを持たせるための班づくり

相互のかかわり合いの中で、一人ひとりが、各班が、学級全体が高まるために、４人の班を編成し、学級の諸活動の基盤を班に置いている。１学期は子ども達の考えを入れて教師が編成した。２学期は子ども達の手で班づくりをする約束である。班の活動内容として、学習時の話し合い・共同作業、教科の係、朝の活動、当番活動、係の活動、笛の練習、班日記・家での勉強の点検と反省、班会議などがある。これらの活動の中から生じた問題や班日記に書かれた悩みは、班や全体に投げかけて相互のもみ合いの中で、解決の方法を見つけ出せるようにしている。これらを通して、よりよい学級にしていくのは自分達の力なのだということを分かってほしいと願っている。

② 学習の中での個人・班・全体

友達のよさや努力を見て自分もがんばろう、助け合ってみんながわかるようになろうという意識は育ってきているが、個人差がありなかなか深まらない。そこで、次のような手だてを講じて、学習に対する意欲を一人ひとりに持たせるようにしている。

- 学習の進め方を身につけさせる。
  （課題をつかむ―自分の考えを持つ―班で話し合う―全体で話し合う―まとめる）
- 課題づくりを子ども達の手で行わせる。
- 教科の係を活躍させる。
- 分からない子やあやふやな考えの子の意見を取り上げ、お互いに考えを出し合わせる。
- ノートの使い方を身につけさせる。

こうして、一人ひとりが意欲的に学習に取り組み、「ぼく、分かったよ。」「みんなが分かった。」と喜び合えるようになってほしいと願っている。

③ 教科外での班

朝の活動は、体力づくり・係の仕事などを行っている。活動の具体的な内容は班で話し合い、

何のために何をやるかをはっきりさせ、協力して実践させている。自分達で物事を進めていく力を身につけてほしいので、「内容と方法の計画ー実践ーよかった事やこうした方がよい事の反省」の過程を大切にし、くり返し行わせてきた。集まりが悪い・けんかをする・計画通りできないなどの問題を、班や全体で相談していくうちに、活動内容の工夫や他の班との協力が見られるようになってきた。

(2) 学級会活動（話し合い活動）では

一人ひとりが自分の考えを持って話し合い、みんなで実践してほしい。実践後、「やってよかった。」「もっとこうしよう。」と、次の活動へつなげてほしい。そこで、（問題に気づく→共通の意識を持つ→全員で話し合う→実践・反省）の過程を大切にしてきた。

① 問題に気づくために

子ども達の心の中にある問題や願いを出し合うために、背面黒板を活用し気軽に自分の考えを書かせたり、朝会・終会時に発表する場を設けたりしている。しかし、いろいろな考えや願いはあるのだろうが、それを学級のみんなに向かってなかなか言えないのである。教師に訴えたり、班日記を書いたり、ごく一部の友達に言ったりするくらいである。そこで、班日記に書かれた内容を教師が投げかけたり、朝会時に班で話し合う時間を特設したりしている。徐々に自分達で問題を見つけ出せるようにしていきたい。

② 共通の意識を高めるために

- 議題は学級のみんなで相談した方がよいものを全員で選ばせている。
- 選んだ議題について自分の考えを持たせるために、司会の班や教師が働きかけている。
- 班会議を開いて、議題についての意見交換や情報交換をしている。
- 話し合いの計画は、今まで経験したことを思いおこさせたり、教師がアドバイスをあたえたり、具体的な活動をさせたりしながら立てさせている。
- だれもが、司会や書記がやれる喜びを経験し、学級会への意欲を持つようにするために、輪番制で司会を行わせている。

③ 全員が話し合いに参加するために

全体の場でなかなか発言できない子や声が小さくてみんなに発表が聞こえない子が多くみられる。友達が代わって言ってあげているが、なかなか本人の自信へとつながらない。そこで、全体の話し合いの途中に班の話し合いを入れて、気軽な気持ちで話し合わせている。

班で発言できた自信は、「よし、みんなの前で発表してみよう。」という意気ごみを生み出した。また、「さっき言ったこと、みんなの前で言ってごらん。」という励まし合いも生まれ、発言意欲も高まってきた。

④ 実践意欲を高め、次の活動へ発展させるために

決めたことをすぐやりたいのが子どもの素直な気持ちである。その気持ちを大切にし、決めたことは、できるだけ早く、自分達の力で実践させるようにしている。

実践後は、感想を話し合ったり、作文を書いたりし、その中から、よかったことや問題点をみつけ、次の活動に生かすようにさせている。

1. 議　題　名　　3年2組の展覧会を開こう

2. 議題と児童

(1) 議題発生の背景

一学期の終わりにみんなでやりたいことを集めたら、しりとり・なぞなぞ・おたのしみ会・フルーツバスケット・野球大会・絵や工作のコンクール・笛の発表会などが出た。そこで、おたのしみ会にしりとりやなぞなぞを含めて行った。フルーツバスケットは朝活動や短い時間をみつけて行った。これらの活動を通して、子どもたちはグループ内で考えを出し合って相談し、協力するようになってきた。

出来なかった野球大会などは二学期に行う約束なので、どうするかを相談したら、まず先に、野球大会をやり、次に、絵や工作のコンクールをやろうということになった。学校の展覧会も近づいているので、絵や工作への関心が高まっていることから、単にコンクールというより、自分達の学級らしい工夫した楽しい展覧会にしようという意識が芽生えてきている。

(2) 指導の構え

学級の展覧会であるからには、学級の全員が喜んで参加できる展覧会にし、「みんなの楽しい作品が展示できてよかったね。」と喜び合いたい。また、この活動を通して、協力する学級集団へ高まって行くことを期待している。しかし、実際には、絵を描いたり工作を作ったりするのが好きな子・うまく描いたり作ったり出来ない子・時間のすごくかかる子など、いろいろな子どもがいる。だから、絵を描くのが苦手な子でも誰でも、みんなが喜んで参加できるように、作品の内容を工夫させて、「描いたり作ったりしてみたい。」という意識を高めたい。話し合いの中に情報交換の場を設けたり、作る途中で工夫している所を紹介したりして、作品内容の良さを認め合わせたい。そして、工夫しながら最後まで作品を作らせ、「ぼくの作品が飾られた。」という満足感をみんなが味わえるようにしたい。

材料の面で金銭の問題が生じてくると思うが、材料はできるだけ身の回りにある包装紙などを利用するよう指導していきたい。

3. 本時に至るまでの経過

- 9／30(金)　次の学級会への期待 ―― 展覧会について話し合おう。みんなが喜んで参加できる学級の展覧会にしよう。
- 10／4(火)　司会班と教師のうち合わせ ―― どんな事を相談したら、展覧会が開けるか、話し合いの柱を相談する。
- 10／5(水)　意欲づけ ―― どんな作品なら、みんなが喜んで描いたり作ったりできるか、考えておこう。
- 10／6(木)　話し合いの準備 ―― 司会班・提案者・教師とでうち合わせをする。
- 10／7(金)　本時の話し合い ―― 3年2組の展覧会を開こう。

4. 本時の展開

(1) **ねらい**

◦みんなが喜んで描いたり作ったりできる内容を話し合って決める。

◦自分の考えをはっきり発表する。

(2) **展　　開**

段　　階	児童の活動	予想される児童の意識	教師の指導助言
開　　会 議題確認 提案説明	1. 開会する。 2. 議題を確かめる。 3. 提案理由を説明する。	◦ぼくの考えてきた作品をみんなも作ってみたいと思うといいなあ。	
	提案の骨子 みんなの楽しい作品を飾れる展覧会にしたい。どんな作品なら、みんなが喜んで描いたり作ったりできるか、話し合って決めたい。		
話し合い	4. 提案について質問する。 5. 話し合いの順序を確かめる。 6. 話し合いをする。 ①どんな作品を飾るか。 ②一人何点も出していいか。	◦ぼくの考えた作品をみんなに紹介するぞ。 ◦A君の作品は工夫してあるなあ。 ◦B君の作品がいいなあ。作ってみたいなあ。 ◦ぼくの考えた作品が気に入ってもらえたよ。うれしいなあ。 ◦ぼくはあの作品を作るぞ。 ◦早く作りたいなあ。描きたいなあ。	◦これなら自分で作れるなと思うものをたくさん考えて、紹介させる。 ◦材料はできるだけ身の回りにあるものを利用するようにさせる。 ◦アイデア作品は賞賛してやる。 ◦司会班を労う。
決定事項の確認 指　　導 閉　　会	7. 決定したことを発表する。 8. 閉会する。		

※　事後に、展示期間・場所・係分担を決める。

(3) **評　　価**

◦みんなが喜んで描いたり作ったりできる内容を考えたか。

◦話し合いの中で、実践意欲がみられたか。

第４学年１組　学級会活動（話し合い活動）指導案

指導者　高　橋　道　子

―― 主題に迫るための学級経営 ――

(1)　学習集団づくりでは

どの子も「よく分かりたい」「よくなりたい」という気持ちを強く持っている。一人ひとりのこの気持ちを大切にしたいと思う。そのために、学級の活動の基盤を班におき、相互のかかわり合いの中で一人ひとりの高まり、集団としての高まりを求めようとしてきた。学習する喜び、生活を築いていく喜びを自分の手でつかみ、「もっとよくなろう」「もっとがんばろう」と前向きに取り組むことを願っている。

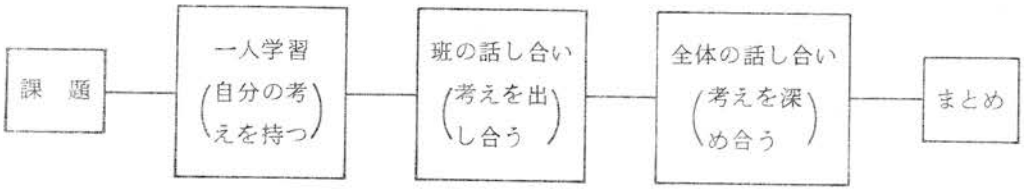
①　学習のスタートは「分からない」から

考えたけれども分からない、途中までは分かったけれども……、○○があやふやだ ―― これもりっぱな考えだ、違う考えが解決の手がかりになるかもしれない、「分からない」と言ってくれたおかげでもう一度考え直すことができた。この構えで、学習を進めている。

「分からない」「あやふや」をはっきり言える子ども、それに対して、納得のいく説明をし合える子どもであってほしい。互いに、「分からなかったことが分かった」「考えを出し合ったらなおさらよく分かった」と喜び合える子どもたちであることを願っている。

②　学習は、自分たちのために自分たちの手で

一人ひとりが学習に意欲的に取り組み、「よく分かった」「みんなと勉強すると楽しい」と目を輝かしてくれたなら、どんなにか嬉しいだろう。そうなることを願って次のようなパターンを基本にして学習を進めている。



「今、何が分からないか」「分かりたいことは何か」を明確にし、「分かろう」とする意欲を高めたいと考える。班の話し合いにより発言力のない子どもに自信を持たせたり、考えの相違を見つけさせたりして全体の話し合いへ期待を持たせ、全体で考えを出し合いつなぎ合って学習の理解を深めようとした。最近では、教科班が学習を進めたり、家庭学習に課題を取り入れ自分なりの考えを持って授業に臨んだりなど積極的な取り組みが見られるようになってきた。まとめの段階で次時の課題を確かめ合い、学習への意欲づけに努めている。

③　生活をよりよくするのも自分たち

学習、係、当番、学級会の司会、体力づくりなど日々のさまざまな活動は、班（男女４人）

で取り組ませている。男女差、能力差、性格の違い等から、当然、問題が生じる。

この問題発生こそが、子どもたちの目を問題解決に向けさせ、学級のくらしをよくしよう、楽しくしようとする源になると考える。子でもたちは、自分たちの手で何とか解決できないか四苦八苦する中で、思いやりや助け合いの大切さ、言い分を聞き合う大切さを学び、認め合う喜びや励まし合ってがんばるすばらしさを感じとってきている。

(2) 学級会活動（話し合い活動）では

問題発生 ── 問題提起 ── 問題解決の一連の活動を通し、子どもたちの「生活をみつめる目」を育て「生活をよりよくする力」を伸ばしていきたいと考える。

① 問題に気づく子どもをめざして

生活をみつめる目は自分に向けられるだけでなく、班の仲間へ、他の班へ、学級全体へと向けられ、困っていること・悩み・願い・喜びとなって、子どもたちの心の中に渦巻く、この渦を大切にしたい。あきらめたり逃避したり、感じとれなかったりする子どもであっては、解決に立ち向かう意欲も力も生まれてこない。そこで、次のような場を設けて、日々の活動から生じた問題をはき出させみつめ直させている。

・日記に書く（班日記、個人日記）　・班で話し合う　・朝会・終会時に提案する
・学級会黒板に書いて学級の問題にする
・学級通信を通じ生活をみつめる目を培う

個 ── 班 ── 全体のつながりの中で、何が問題なのか、どうすることが学級生活をよくすることなのかを考えさせていきたい。

② 共通の意識を持って、自分たちの手で解決しようとする子どもをめざして

◦朝会・終会時あるいは学級会の時間に、全員で議題選定を行う。
◦議題について班で話し合ったり自分で考えたりして、自分なりの意見を持って話し合いに参加するように働きかける。
◦議題に関係する情報や資料を集めるように働きかける。
◦司会は班の輪番制。司会や書記の経験は、子どもたちに学級の成員としての責任感と成就感を持たせ、学級会への意欲を高めさせると考える。

③ 全員が話し合いに参加し、実践する子どもをめざして

◦話し合いの過程に班の話し合いをとり入れる。よい考えを持っていても発言しない子や多数意見に追従し勝ちな子がいるので、班の話し合いにより一人ひとりが自分の考えを述べ合う場をつくり、全員がやる気を持って話し合いに参加するように努めている。
◦話し合いの柱を２つぐらいにしぼり、具体的で確かな解決策を考えさせている。また、安易に多数決に頼らず、十分話し合い納得した上での譲歩も大切であることを学ばせるようにしている。実践意欲につながる話し合いを展開したいと考えるからである。
◦実践の時間と場を保障し、「自分たちでやれた」という喜びを持たせるようにしている。この喜びが、よりよい活動をつくろうとするエネルギーになると考える。

1. 議　題　名　　学級の旗を作ろう

2. 議題と児童

(1) 議題発生の背景

夏休みが終わって2週間あまり、子どもたちに、「よし、みんなで本気出してやろう」という意欲と実践力が見られず、何とかしなければ……と思う日が続いた。そこで、「みんなは、どんなクラスにしたいか」を改めて聞いてみた。「ハキハキと自分の考えを言えるクラス」「明るく楽しい4の1」「男女なかのよいクラス」の返答だった。そのためには、全員で楽しめる会をしたらいいのではないかと、多数が集会活動を挙げた。その時、一学期に行った野球大会でグループ毎に応援旗やプラカードを作って大会を盛り上げたことを思いうかべ、「学級の旗を作って、いろんな大会に使うと、楽しくなる。」の提案があった。「今すぐにもやろう」「校内マラソン大会もあるから間に合わせよう」と意欲を見せ、全体で話し合うことになった。

(2) 指導の構え

みんなで考えを出し合い、クラスにふさわしい旗を作っていく過程で、認め合い支え合う人間関係が深まっていくことが期待できる。また、みんなで作った「学級の旗」のもとに、一人ひとりが学級の一員としての所属感を深め、学習をはじめとしてさまざまな活動に力を出し合い励まし合って取り組むことを願っている。

勿論、支え合い高まり合おうとする意欲と実践力は、「学級旗づくり」だけで培えるものではない。日々の教育活動を全般にわたって育て伸ばしていくものであるが、クラスのまとまりに今一つ物足りないこの期に、「学級旗づくり」を通して、学級生活をよりよくしようとする意欲と実践力を高めたいと考える。

子どもたちは、クラスへの期待や願いをどんな図柄に表したらよいかに四苦八苦することだろう。学級旗を持っている6年生から資料を集める、図書館から資料を捜す、図工の学習で学んだことを手がかりにするなど、工夫し協力して、クラスにふさをしいデザインを考えるだろう。十分練り上げさせ話し合わせて、「自分たちで作った」と満足できる旗を作らせたい。

3. 本時に至るまでの経過

- ◦9／17 (土)　問題提起 ―――― 学級の旗を作ろう。
- ◦9／19 (月)　旗のイメージ化 ―――― 「旗にどんなことを表したいか」を考えたり、意見交換したりしよう。6年生から旗の由来を聞くといいね。
- ◦9／26 (月)　話し合い①の意欲づけ ―― 「旗にどんなことを表したいか」について、自分の考えや班の考えを言えるようにしておこう。
- ◦9／30 (金)　話し合い① ―――― 旗にどんなことを表したらいいかを決めよう。
- ◦10／7 (金)　話し合い②（本時）―――― 学級の旗を決めよう。

4. 本時の展開

(1) ねらい

◦提案された旗をもとに、クラスにふさわしい旗を話し合って決める。

◦友だちの意見をよく聞いて、自分の意見を発表する。

(2) 展　開

段階	児童の活動	予想される児童の意識	教師の指導助言
開　会 議題確認 提案説明	1. 開会する。 2. 議題を確かめる。 3. 提案理由を説明する。	◦いよいよ学級の旗が決まる日だ。 ◦ぼくたちが考えた旗が採用されるといいな。	◦提案されたいくつかの旗の中から一つを選ぶのでなく、必要によっては折中案でもよいの考えで話し合いを進めさせる。
	提案の骨子 みんなで考えを出し合い、4の1にふさわしい旗を作ろう。マラソン大会などさまざまな行事に学級旗を活用し、みんなが力を合わもてがんばっていけるようにしたい。普段は教室にかかげ、ぼくたちを応援してもらおう。		
話し合い	4. 話し合いの順序を確かめる。 5. 話し合いをする。 ①提案された旗について説明し、質問し合う。 ②クラスにふさわしい旗を決める。	◦どれもよく考えた旗だなあ。 ◦あの絵は、何を表すのかな。質問してみよう。 ◦Aの旗とBの旗を合わせて一つにまとめたら、もっとよくなるのではないか。 ◦決めるのはむずかしいなあ。	◦何をどう表そうとしたかをはっきりさせたい。 ◦なかなか決めがたい場合、図柄の構想を確認して係に一任し、後日、全員で協議して決定することにする。
決定事項の確認 指　導	6. 決定したことを発表する。	◦クラスにふさわしい旗ができそうだ。 ◦早く作って使いたい。	
閉　会	7. 閉会する。		

(3) 評　価

◦クラスにふさわしい旗について話し合うことができたか。

◦学級旗を作ろうという意欲が見られたか。

祝 五泉南小学校学習指導研究会
第18回全国バズ学習研究集会

教材教具専門店

渡辺教材店

[redacted]

学校教材納品専門店

有限会社

佐藤図書教材社

[redacted]

図書・雑誌・地図

文松堂書店

[redacted]

実践できりひらく教育シリーズ（全6巻27冊）

全6巻27冊の構成

第1巻　非行問題解決への実践

- 第1分冊　生活が乱れ始めた子の指導
- 第2分冊　低学力と退廃文化で崩される子の指導
- 第3分冊　非行・問題行動に陥った子の指導
- 第4分冊　荒れた学級・学校をたて直す

第2巻　すこやかに育てる子どもの心と体

- 第1分冊　子どもの健康な体をつくるために
- 第2分冊　基本的生活習慣をしつけるために
- 第3分冊　非行の芽ばえが見える子の指導
- 第4分冊　心や体に障害をもつ子の指導

第3巻　生きる力を育てる生活指導

- 第1分冊　子どもの遊びや遊び仲間をつくりだすために
- 第2分冊　学級集団の中での自治活動
- 第3分冊　豊かな学級の行事と文化活動
- 第4分冊　学校の自治と文化を育てるために
- 第5分冊　子どもの生きる力を育てるために

第4巻　子どもが伸びる授業と評価

- 第1分冊　子どもの見方・感じ方・考え方を生かしたわかる授業
- 第2分冊　学習する力をしつけるために
- 第3分冊　わかる授業のための教材研究や授業の準備
- 第4分冊　子どもが生き生きと活動する授業
- 第5分冊　子どもを育てる評価の工夫

第5巻　子どもと生きる教師のしごとと生活

- 第1分冊　「こんな先生大好き」と言われる教師になるために
- 第2分冊　生き生きと学びつづける教師になるために
- 第3分冊　仲間とともに育つ教師になるために
- 第4分冊　家庭と職場で充実した教師になるために
- 第5分冊　現代を生きる教師となるために

第6巻　信頼し協力し合う父母と教師

- 第1分冊　たのしい父母会や授業参観
- 第2分冊　親と子の期待にこたえる家庭訪問
- 第3分冊　教師と親の相互理解
- 第4分冊　教師が家庭の問題にかかわるとき

発行所　株式会社　日本標準

[redacted]

＊日本標準特約店＊

佐藤新次郎

㈱内田洋行

五泉市・新津市・地区専売店

有限会社 オーツ教材店

[redacted]

日本楽器特約店
各社レコード楽器全般

名曲堂

[redacted]

HIGH FASHION
LADY'S KNIT

株式会社
ウメダニット

[redacted]

タクシーの御用命は

㈾山岸タクシー
五泉営業所

[redacted]

株式会社
本間メリヤス工場

取締役社長 本 間 一 雄

[redacted]

渋谷ニット株式会社

代表取締役 渋 谷 進

[redacted]

有限会社マルヤ整理工場

[redacted]

株式会社
落合メリヤス

代表取締役 落 合 健一郎

[redacted]

株式会社
ツボカワローブス
代表取締役 坪 川 孝
[redacted]

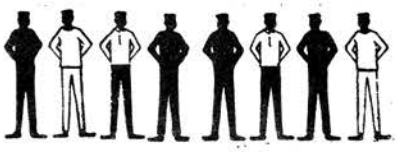
高級ニットウエア製造
有限会社
吉井センター
代表取締役 吉井良吉
[redacted]

中野株式会社
[redacted]

躍進する
ニットファッションメーカー
有限会社
九折縫製工場
[redacted]

株式会社
横正機業場
横 野 正三郎

レディースニットファッション
有限会社 **佐正ニット**
代表取締役 佐藤 正
[redacted]

メンズニットファッション

株式会社 **笹 巻**
代表取締役 佐藤 弘
[redacted]

正絹織物 蔦印
笠原機業株式会社
代表取締役 笠原英司

スターニット **株式会社** 代表取締役 星　　真　治 [redacted]	総合建設業 株式会社 **山五建設** [redacted]
有限会社 **清野ニット** [redacted]	毎度ありがとうございます 味自慢 **利久堂** [redacted]
ニットのパイオニア アミード ポプラ **外山商事** 株式会社 [redacted]	**(有)和泉家具店** [redacted]
コンニャク トコロ天・製造販売卸 イ　ゴ 有限会社 **鈴木食品** [redacted]	フレッシュ **サニー** 五泉市本町3 **西潟青果** [redacted]

品質第一の専門店

高級文具・事務用機器

有限会社 五十嵐吉平商店

[redacted]

あなたの境界は
ハッキリしてますか！

測量・境界調査・土地分筆・建物登記

土地家屋調査士

小田順一事務所

[redacted]

車検・定期点検・一般整備
各種自動車販売・鈑金・塗装

中央モーター
サービスセンター

[redacted]

尾張屋金物店

樋口辰夫

[redacted]

自動車保険は
プロ代理店へ！

株式会社
丹羽保険センター

[redacted]

五泉絹織物

有限会社 熊倉

[redacted]

婦人服・子供服

カネボウ化粧品

みのりや

[redacted]

ヘアーサロン せきや

[redacted]

MIZUNO ハウ. Champion products PUMA

総合スポーツショップ

Ikeda イケダスポーツ

[redacted]

笹だんご・赤　飯

阿部菓子店

[redacted]

時計・メガネ・宝石

本間時計店

[redacted]

陸運局認証車検工場
自動車車検・整備・鈑金塗装
新車・中古車販売・自動車保険

三洋モータース

三洋モータース

[redacted]

総合衣料・寝具・雑貨の店

さいに

[redacted]

お米の専門店

藤塚米店

[redacted]

伝統工芸加茂タンス直売

㈱ マルダイ家具

[redacted]

深蒸し煎茶の専門店

朝日茶業㈱特約店

大和園

[redacted]

和洋酒

あいだ酒店

[redacted]

五泉の地酒

清酒 酔星

[redacted]

㈲木津屋商店

[redacted]

総合食品の店 仕出し・鮮魚・惣菜 野菜・果物・食品

赤海プラザ・寺沢プラザ、毎度ご利用致だきまして誠にありがとうございます。

阿部鮮魚店

阿部　清

[redacted]

すし勝

[redacted]

酒井病院

[redacted]

総合結婚式場

大小宴会

清風園

[redacted]

ミナミ清風園

[redacted]

きりんざん吟醸
一番しぼりふなぐち菊水 } 特約店

近藤義一酒店

[redacted]

主食販売店

㈲小出商会

[redacted]

＊学校用品オーダー・メイドで
なんでもします。

アルミ・ステンレス製品製作販売

㈲五泉鋳巧所

[redacted]

メンズ＆レディスニット

株式会社 丸山商店

代表取締役 丸山俊治

[redacted]

だれでも つかえる
コンピューター電子ミシン

[redacted]

札幌ラーメン

どさん娘

[redacted]

藤塚商事株式会社

[redacted]

[redacted]

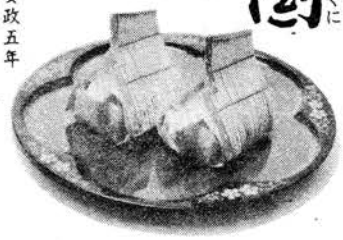
大阪屋

創業安政五年

越後銘菓

雪国（ゆきぐに）

越後人の心の
ふるさとを
お菓子に
託しました。



綜合建設業・一級建築士事務所

[redacted]

高野紡織㈱ 高　野　真　資 [redacted]	**岩野プレス工場㈱** [redacted]
自主学級 **あゆみの会**	**横野オート** [redacted]
＊カメラ3～20回払い＊ 婚礼写真と各種証明、記念写真 **CK カメラのコイケ** [redacted]	交通安全は基礎教育の徹底から 公安委員会指定 運転免許のことなら **五泉自動車学校** [redacted]
新潟県知事(2)第2124号 株式会社 **北日本土地** [redacted]	クボタ農業機械 **安中農機商会** [redacted]

咲花温泉阿賀野川畔の宿

全室からすばらしい山河の眺望
大広間・大浴場

佐取館

（マイクロバスご送迎）

[redacted]

出光 高品質
金アポロガソリン

出光興産販売店

㈱ 佐久間石油
五 泉 石 油 ㈱

代表取締役 佐久間紀平

現代感覚の魅力の印刷……

総合印刷

有限会社 **新津プリント社**

[redacted]

祝　研究会の成功を祈る

五泉市立五泉南小学校ＰＴＡ
五泉市立五泉南小学校後援会

ご協力ありがとうございました。